

2013 グリーンテクノバンク・シンポジウム「北海道の農村地域における小水力発電の可能性」が平成 25 年 10 月 3 日札幌エルプラザで開催されました。



昨年 7 月から再生可能エネルギーの固定価格買取制度が施行され、規制・制度改革の追い風も働き、小水力発電に関しても全国

的に導入の機運が高まってきました。しかし、北海道では本州と比較して小水力発電の導入事例が極めて少ないのが現状です。そこで、小規模であっても農村における未利用水エネルギーの「地産地消」が可能であること、同時に技術的課題と維持・保守管理経費や制度上の規制・制約等への対応を含め、道内各地での事例報告を踏まえて広く情報を共有して積雪・寒冷地での導入促進に向けた論議を深めることを目的としてシンポジウムを実施しました。



農研機構農村工学研究所後藤眞宏総括上席研究員をコーディネーターにパネルディスカッション「未利用水エネルギーの「地産地消」を地域産業振興に活用するためのアイデア」を行い、熱心な議論が行われました。土地改良区職員、行政機関、企業など参加者 159 名でした。